

監査結果報告書

2016年5月26日

社会福祉法人保健福祉の会 殿

監事 北田喜美代 ⑩

監事 佐藤 晃敏 ⑩

私たち監事は、社会福祉法第40条および関連法に基づき2015年度（2015年4月1日から2016年3月31日）の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時 2016年5月20日（金）9時30分～15時45分

監査場所 都和のはな3階会議室

立会人 上田法人理事長、川原法人常務理事、田村法人事務局員、吉田法人事務局員、磯部老健西の京事務長、猪熊特養都和のはな施設長、小林GH都和のはな管理者、和久田虹の家管理者、近藤青い空保育園園長、阿加井洛西保育園園長、竹内白い鳩保育園園長、出路あらぐさ保育園園長、田村パーチェ管理者

監査結果

1. 社会福祉法人保健福祉の会の2015年度財務諸表及び総勘定元帳、会計伝票、証拠書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。

2. 法人および各事業所

（1）法人の結果

介護・保育・児童支援の各分野で、厳しい情勢と「闘い」ながら、「利用者・子どもの立場に立った」事業の維持・発展に努めてこられた役職員の皆様に敬意を表します。

2015年度は、青い空保育園の開設及びあらぐさ保育園の定員拡大と児童相談支援事業所の開設をおこなってこられました。

2016年度も、ひきつづく厳しい状況のもとで更に事業を維持し発展させられることを心より期待いたします。

2015年度の法人合算では、前年につづいて三事業分野とも黒字となり当期活動増減差額1億891万円の黒字となりました。前年度・予算とも上回る黒字を確保しています。京都府民間社会福祉施設職員共済会制度移行による特別収益を除いても収益比3.3%の利益を適切に確保しています。

事業活動のサービス活動収益は13億1,350万円となり、前年より8,331万円（106.3%）の増収となっています。事業毎には、介護事業▲2,023万円（前年比97.2%）の減収、保育事業8,331万円（116.7%）の増収、児童支援事業2,019万円（前年比124.3%）の増収となっています。

資金収支差額合計では、1,932万円の黒字となっています。今期の100万円以上の投資は、青い空保育園の園舎2,289万円、老健西の京介護システム654万円、白い鳩・洛西保育園の空調更新540万円・966万円、あらぐさ保育園の園庭整備226万円、パーチェ梅小路のプール120万円で、合計5,880万円となっています。

財政面では、総資産は、25億2,605万円で前年度より1,133万円の増加となっています。固定資産は、建物、積立金等の増加、減価償却の差引で1,023万円の増加となり、負債は、7億837万円で前期より▲9,412万円の減少となっており財政面では安定しています。

法人運営では、理事会の出席率は100%（前年度100.0%）、評議員会は91.1%（前年度92.6%）と

なっています。毎月定期的に法人事務局会議（常務理事・介護事業部長・保育事業部長・障がい児通所支援事業管理者で構成）が開催され、効率的な運営が行われています。

（２）各事業所・施設の結果

①保育事業

保育事業に関わる大きな特徴は、新制度がスタートしたことで青い空保育園の開所です。

青い空保育園は、2014年度に引き継ぎ、これまでの保育を継承し、保護者と丁寧に話し合いを進めてきました。3カ園からの職員と新人保育士で青い空としての保育をまとめていく作業は苦労したとのことですが概ね高評価をうけているとのことでした。

白い鳩保育園は、年度当初、園長交代、新任保育士を迎えたこともあり入所を抑え124名（定員+4）、洛西保育園は120%超え2年で減算になることを受け減に移行し始めて144名（定員+24）、あらぐさ保育園55名（定員+5）、青い空保育園61名（定員+1）でスタートしています。延べ人数は、白い鳩保育園1,539名（1か月平均128名、前年度比96%）、洛西保育園1,770名（1か月平均147名、前年度比94%）あらぐさ保育園683名（1か月平均57名、前年度比100%）青い空保育園743名（1か月平均62名）となっています。

白い鳩保育園では、職員間での意思統一の時間・会議の時間を重要と考え、気管切開によるたん吸引の必要な子どもの対応について、保育内容について、園児が園舎外に出る事故等、速やかに対応してきました。

洛西保育園では、子育て仲間として保護者同士のつながりを深めていけるように4月2歳児以上5歳児で親子遠足を導入6月には0・1歳児クラスの親子ふれあい遊びを行いました。

あらぐさ保育園は、新制度により委託費は増となったが、プール制からの収入が大きく減となり厳しい運営となっています。園庭の拡張によりゆったり遊ぶ姿が見られようになっています。

青い空保育園は、京都市職員の引き上げに対して反対意見もなく、保育についても不満や不安はほぼない状態で、移管はスムーズに行うことができました。

決算の特徴では、サービス活動収益は、白い鳩保育園前年比96.8%、洛西保育園95.8%、あらぐさ保育園102.3%となりましたが、青い空保育園の収益9,587万円があり、全体で8,331万円の増収となりました。

当期活動収支差額は、白い鳩保育園（2,970万円の黒字、但し京都府民間社会福祉施設職員共済会の制度移行による特別収益等2,250万円を除くと、実質は720万円の黒字）、洛西保育園（3,430万円の黒字、同713万円を除くと、実質は2,717万円の黒字）、あらぐさ保育園（1,252万円の黒字、同1,301万円を除くと、実質▲31万円の4年連続の赤字）、青い空保育園（888万円の黒字、同10万円を除くと、実質は878万円の黒字）、合計で実質4,266万円（8,540万円）の黒字となっています。

②児童支援事業

2015年6月から新たな事業「児童相談支援パーチェ」を開所しました。発達について専門性を持ち、他施設との連携にも力を入れてきています。

障がい児通所支援・放課後等デイサービスでは「待たないですぐに療育を受けられる施設に」ということで、毎年進路相談を通して、単独通園に転園することで枠ができて早期発見、早期療育の役割を果たしています。放課後デイでは市内に60か所以上まで増え家族のセルフプランにより数か所利用をしている子どものたちがいる一方で、家族は助けられている現状があります。子どもたちにとって安心できる場所であるために全体の質の向上と支援者同士の理解を深めては施設との連携を行っています。

利用者状況は、パーチェ年間3,058名（1日当たり10.5名 前年度比率96%）、第二パーチェ年間2,647名（1日当たり9.1名 前年度比率95%）、パーチェ梅小路年間2,695名（1日当たり9.2名 昨年度6か月に対しての比率124%）相談支援パーチェ計画相談6月から10か月112件（月平均11件）モニタリング4か月で28件（月平均7件）となっています。

サービス活動収益では、パーチェ梅小路の年間での稼働や新規事業相談支援パーチェの開設により大きく収益増となっています。パーチェは前年比100.7%、第二パーチェは前年比99.2%、パーチェ梅小路223.8%、相談支援パーチェ237万円の収益を加えると、合計で前年比124.3%（2,019万円の増収）となっています。

当期活動増減差額は、パーチェ147万円、第二パーチェ333万円の黒字、パーチェ梅小路378万円の黒字、相談支援事業パーチェ38万円、合計で896万円の黒字となっています。

③介護事業

介護報酬の2015年改定では、改定率▲2.27%のうち処遇改善・重度対応など以外の部分で、4.48%と最大規模のマイナス改定となり、基本報酬が軒並み引き下げられました。処遇改善加算の対応や在宅療養・在宅復帰支援加算の維持、利用者増等でマイナス改定の影響を少なくするよう努力をおこなっています。

法人内の各入所施設の欠員補充が特に難しく、派遣や紹介が補充の中心となる中で、定着が出来ず短期間での交代を繰り返すなど厳しい状況が続いています。

特養都和のはなは、入居者は20名の満室で、稼働率は91.8%（前年96.2%）となっています。延べ入院数は25名で入院日数は549日、4名が亡くなっています。

グループホーム都和のはなは、入居者は9名の満室で、稼働率は95.4%（目標97%）となっています。入院者は4名・9回・104日となっています。入居者の重症化により、重介護にも対応できる職員の力を付けることを重点に取り組んでいます。

老健西の京は、利用者状況は長期入所者30,644名（前年比94.92%）、ショート入所者2,325名（前年比139.0%）、入所の稼働率は91.1%となりました。在宅復帰率は50.5%と強化型の基準になっています。通所は、一日当たり30.4名、前年比97.1%と減少しています。居宅介護支援数は、66.7名/月平均と目標の70名に届かず、前年比93.5%と減少しています。管理委員会の団結、役責者・職員との信頼関係に大きな課題を残し、管理体制の再構築で役責・職員に依拠した施設運営を強化が急務となっています。

虹の家は、前年に新事務所に移転し、引き続き地域に根差した事業展開を順調に進めています。訪問介護等の件数は月平均で42.4名と前年比90.0%の減、居宅支援の件数は、60.6名/月となり、前年（59.5名/月）を上回っています。

決算の特徴は、介護報酬マイナス改定の影響もあり、サービス活動収益で、特養都和のはなは前年比94.3%の減少、老健西の京は96.9%の減少、GH都和のはなは103.5%の増収、虹の家は104.1%の増収、合計で97.2%、▲2,023万円の減収となっています。

当期活動増減差額は、特養都和のはなは▲255万円の赤字、老健西の京は562万円の黒字（人件費をはじめとした費用の減少が主な要因）、GH都和のはなは151万円の黒字、虹の家は325万円の黒字、合計で783万円の黒字を確保しています。

以上